

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
16	川崎市立新町小学校	加賀田 葉子

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>ま:毎日元気であいさつする子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き、あいさつ等の基本的生活習慣を身に付ける。 ・体育・教育を通して、健康で安全な生活を送るための基礎を培う。 <p>が:がんばって約束を守りやりぬく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との関わりを通して豊かな人間関係を養う。 ・自己肯定感を高め、自尊感情や自信をもって生きていく姿勢、他者を尊重する姿勢を育む。 <p>た:助け合い 思いやるやさしい子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を持ち、人間としての生き方について自覚し、道徳性を養う。 ・自らを律しつつ、他者とも協調し、思いやる心や感動する心など豊かな人間性を育む。 <p>ま:まじめに進んで学習する子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得し、思考力・判断力、表現力等を育む。 ・主体的、対話的で深い学びに取り組む態度を身につける。 	<p>学校経営の指針</p> <p>◇「かわさき教育プラン」の基本理念にある「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ために、基本目標の「自主・自立」「共生・協働」を一人一人に育む。</p> <p>◇地域に生活する児童の実態に基づき、本校としての教育課題を明確にし、特色ある教育課程の編成に努める。</p> <p>◇子ども一人一人の理解に努め、「わかる授業づくり」を土台に、子どもの「居場所」となり、保護者にとって安心して任せられる学校づくりを目指す。</p> <p>◇本校の歴史や良き伝統を大切にしながら、学校のあるべき姿を追求する。</p> <p>◇学校と家庭・地域双方向の協力関係の構築に努め、地域の教育力を生かした教育活動を進める。</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 いじめ・不登校等を生まない環境づくり・早期対応と人権尊重教育及び共生・共育の推進	<p>○いじめ防止の標語を全校で取り組み、掲示場所を決めることで、さらに学校として全児童が意識していけるようにする。いじめ防止の標語は、月の目標と関連させて実施していく。</p> <p>○効果測定を通して児童一人一人の特性について把握し、学年で話し合い、児童理解を深めていく。また、確かな児童理解を基盤として学級経営に反映させていく。</p> <p>○学級担任だけでなく対応するのではなく、管理職、支援教育コーディネーター、養護教諭を含め、学校組織として対応していく。</p> <p>○引き続きいじめ防止基本方針を基に全職員で共通理解を図る。学校だけでなく、保護者や地域とも情報交換を密にとり、いじめを生まないいじめを許さない環境づくりに努めていく。</p> <p>○いじめ防止のための授業を計画したり、いじめ防止のための啓発をする。外部講師によるスマホ・ケータイ教室を実施し、情報モラルについても高めていけるようにする。</p>	<p>○人権意識を高めるために、毎年いじめ防止の標語を廊下に掲示をしたことで意識が高まっている。月の目標と関連させて実施できた。</p> <p>○効果測定を通して、児童理解に役立てることができたが、学年間での取り組みや共通理解をもっと図ると効果が上がると感じた。</p> <p>○毎年、人との関わりを重視し、生活アンケートやいじめ予防の標語などに取り組んでいる。今後、児童一人ひとりの心に残るようにしていきたい。</p> <p>○いじめや不登校等に対して担任は状況、経過を把握し、管理職、支援教育Coに報告と対応の相談等を行い、学校組織として共通理解を図った。</p> <p>○スマホ・ケータイ教室を実施し、情報機器を使ったいじめが起こらないように啓発した。高学年は、警察によるスマホ教室を実施した。</p>	<p>○効果測定を実施したのち、結果をもとに子供の様子を学年で話し合い、児童理解を深めていくようにする。</p> <p>○ふわふわ言葉の推進やいじめ防止の標語に取り組む際に、発達段階にあった伝え方を考慮していく。</p> <p>○必要に応じていじめ防止のための授業を計画したり、毎年行っている外部講師によるスマホ・ケータイ教室を計画したりしていくが、情報モラルについても高めていけるようにする。低学年でも情報機器の授業を検討し、実施していく。</p>
2 支援教育の推進	<p>○支援が必要な児童の保護者と情報交換を密にとり、教育支援・指導の計画を見直ししていく。必要に応じて校内で共通理解を図りながら、支援体制を確立していく。</p> <p>○特定期間の個人面談だけでなく、毎月教育相談日を設定することで、保護者が相談しやすい環境づくりを継続していく。必要に応じて担任以外の教員も同席し、児童の困りを解消できる方法を模索していく。</p>	<p>○支援級での教育支援・指導の計画を見直し、保護者と面談で共通理解を図ることができた。通常級でも教育支援・指導の計画を作成し、校内で共通理解することができた。校内での協力体制をさらに構築していけるように努める。</p> <p>○保護者からの相談は、担任だけでなく、必要に応じて支援教育Co、養護教諭、管理職等と情報共有をし、学習等の児童の困りを理解するように努めた。</p> <p>○校内で3次支援を実施し、児童の困り解消につながっている。</p>	<p>○担任は、生活面や学習面から児童の状況を把握し、支援教育Co、養護教諭、管理職と情報共有を行う。1次支援、2次支援などを検討し、実践してけるように努める。</p> <p>○支援を必要とする児童に対して、生活面や学習面を把握し、各担任や支援教育Co、養護教諭、管理職を中心にケース会議を行い、支援体制を整えていく。</p> <p>○3次支援が充実するために体制を整えたり、共通理解したりしていく。</p>
3 主体的な活動の推進 (キャリア在り方生き方教育や地域教育の充実)	<p>○年間指導計画にキャリアで取り組んだものについては、次年度への引継ぎができるのでマークを記入していく。</p> <p>○定期的に部会を開き、各学年の取り組みを確認していけるようにする。</p> <p>○学年会で話し合う日程を決め、確実に話し合える環境をつくっていく。</p> <p>○学校教育活動ガイドラインに沿って、地域に出かけて学習を行ったり、地域の行事等に参加したりして、児童が地域に愛着をもてるようにしていく。</p>	<p>○年間指導計画にキャリアで取り組んだものにマークを付けることで、次年度に引き継ぐことができた。</p> <p>○子どもたちが自ら考えて取り組む活動を意識して、計画を立てることができたが、各学年取り組みにばらつきがみられた。</p> <p>○どの学年も地域に出かけることが増えたことで、児童が地域により愛着をもてた。</p>	<p>○部会の回数を増やし、各学年の取り組みを確認していけるとよい。</p> <p>○学年会で話し合う日程を決め、確実に話し合える環境をつくった。話し合ったことをデータに残すことで職員の共通理解につなげていけるとよい。</p>

4	学ぶ意欲・考える態度(学びに向かう)の育成 社会のデジタル化に合わせた学びの促進	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に教科部会を設定し、指導計画の見直し、変更をしていけるようにする。 ○体育科の研究の成果(指導方法・学年間の系統)を他教科でも生かせるようにしていく。 ○校内研究や校内研修を通して教師側のスキルアップをはかり、児童にとって魅力ある学習が継続して行うことができるよう努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に教科部会を開くことで、教科ごとに各学年の情報共有をすることができ指導計画の見直しや変更をすることができた。 ○校内授業研究を重ねることで教師の指導力が向上し、児童の学習意欲が高まった。その学習意欲が継続し学習したことが活用できるようにしていく。 ○授業の中でのGIGA端末の活用が増えてきたが、活用の仕方が教員によって差があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会を定期的に関き、教科ごとに縦のつながりを意識した指導計画にしている。 ○児童の学習意欲の継続と魅力ある学習を行うことができるように、教師が校内授業研究や研修を通して指導力向上に努める。 ○学習したことが学力として身に付くように、新町タイムで取り組む内容を学校全体で考えていく。 ○授業の中でのGIGA端末の有効な活用の仕方を教員間で共有していく。
5	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時間だけではなく、学校生活、広くは日常生活の様々な場面で、その都度、子ども自らが適切な判断できる価値観や資質が養えるような指導について考え、実践していく。 ○掲示する内容を、学年会などで定期的に話すことで、掲示する枚数の差が大きくなるように努める。 ○教科部で話したことを、全職員が確認できるように部会だよりを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳で学んだことを掲示することで、教科で終わるのではなく、日々の生活の中でも意識して声をかけることができた。 ○クラスや学年で大切にしたい道徳の項目を考え、掲示することで、学級経営にも生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○掲示する内容を学年会などで定期的に話すことで、掲示する枚数の差が大きくなるように努める。 ○教科部から定期的に各学年に呼びかけることで、各学級のばらつきがだいぶ減ってきたので続けていきたい。
6	外国語活動・音楽活動・読書活動・健康・体力づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初、担任とALTの役割を明確にし、ALTにお願いしたいことを伝える。文法や単語の意味は担任が伝え、ALTには発音の練習を重点的に任せる。 ○読書活動活用計画を基に、ブックトラックの中身を入れ替えたり、学校司書と一層連携を図ったりしていく。 ○運動タイムやキラキラタイムの充実を図り、子どもたちが運動の楽しさをより一層感じることができるようしていく。 ○運動での爽快感や楽しさを数多く味わえる場を充実させることで、自然に運動が行えるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動タイムを通して、運動の楽しさや爽快感を感じることができたが、寒い時期は中休みに校庭で遊ぶ児童が減っていた。 ○読書タイムや読み聞かせによって本に親しむ機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会の時間を使い、教材を整理して、使いやすくしていく。 ○運動タイムだけでなく、中休み等も体を動かしていけるように声をかけていく。 ○読書活動活用計画を基に、ブックトラックの中身を入れ替えたり、学校司書と一層連携を図ったりしていく。
7	基本的な生活習慣・行動様式の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の定着に向けて家庭と連携してすすめていく。また、児童個人が学校の生活目標を意識し、安心して学校生活を過ごせるようにしていく。 ○学校だよりや学級だより等を通して、学校での取り組みを家庭にわかりやすく伝え、具体的支援の充実を図る。 ○「新町スタンダード」を守ることの大切さを児童ひとりひとりが実感できるように体制を整え、安全安心な学校生活を確保していく。また、児童発信で行えるような体制にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活目標を学年だよりに載せたり、朝会で話したりした。クラスでの生活目標についての話し合いを行ったことで、さらに意識が高まった。 ○毎年、新町スタンダードを確認し、児童がスタンダードを守るように児童ひとりひとりが意識している。今後も安全安心に児童が学校生活を送れるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年集会などを積極的にに行い、気になる行動について確認したり、意識させたいことを学年で共通理解したりできるように努めたい。 ○新町スタンダードを守ることの大切さを児童発信で行えるような体制をさらに整えていきたい。また、学校目標の「ま、が、た、ま」について意識を高める取り組みも検討していく。
8	外部人材や施設を活用した学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○状況を把握しながら、外部人材を積極的に活用していく。場合によっては、オンラインでつながったり、バーチャル見学をしたりしていく。 ○近隣校の実践例を情報収集し、自校にあった教育活動を見出ししていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年が、学習に合わせて外部人材を招いたり、外部施設を訪れたりすることで、学習内容を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で実施記録を残し、次年度に引き継いでいく。 ○年度当初に年間を見通して、どの学習でどんな外部人材を招くか、どの外部施設を利用するかなどを決めておく。 ○情報収集し、バーチャル見学等いろいろな方法での外部施設の利用も検討していく。
9	指導力向上に向けた研究・研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究、初任者研修を、教員同士が互いの授業を見合い、指導方法や児童への具体的な声かけを見つめ直す機会として、教員それぞれの指導力向上に役立てていく。また、2年目以降の若手教員にも幅広く授業を見合える機会を設けていく。 ○全ての学年が授業公開し、特別支援級を含めた系統的な指導についても研究を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研究では「わかった できた 伝えたい」のテーマのもと「算数科」の研究に取り組んだ。各学年がテーマに迫る手立てを考え授業提案をし、授業後に研究協議を重ねることで教員の指導力向上につながった。 ○初任をはじめ、2年目以降の若手教員の公開授業を計画的に行い、若手同士の意見交換も行うようにし、互いによいところを自分の授業に生かし、役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修だけでなく、2年目以降の若手教員にも幅広く授業を見合える機会を設け、意見交換できる場を作っていく。 ○外部講師を招くことで、より幅広い指導方法や支援の仕方が学べるので、引き続き校内研究の講師をお願いしていく。
10	安全を確保した学校施設の整備と緊急対応管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ○整備された教育環境を維持できるように、日頃から基本的な使い方や、場に応じた清掃指導を行い、児童自らが美化活動の大切さやよさを理解し、快適な生活環境の保持にむけた行動ができるようになっていく。 ○日常的に学校施設の状態を確認し、早急な処置を講じたり、関係部署への修理依頼等を働きかけたりして、より一層の環境整備に努めていく。 ○防災担当を中心に、予想できる様々な状況に応じた避難行動ができるように、計画的な避難訓練を実施する。訓練前後の学級指導を十分に行うことで、発達段階に応じて児童個々の危機意識を高めていく。 ○緊急度の高い情報についてはメール配信し、周知することで保護者や地域への情報提供や注意喚起につなげ、学校と家庭・地域で連携して児童の安全を確保していく。 ○事故防止に向け、アレルギー対応についての研修を全職員で行い、教職員が共通の理解を図りながら、児童の安全を確保していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任を中心とした日々の清掃指導を通して、児童に基本的な清掃の仕方が身につけてきた。 ○日常的な学校施設の状況確認ができていたので、不具合が生じた際にも、迅速に対処することができていた。 ○計画的に避難訓練が実施できていた。訓練を重ねることで、児童が慌てずに落ち着いて行動することの大切さを感じることができていた。また、今年度はコロナ禍でできなかった防犯の職員研修を外部講師を招き行い、教職員の危機管理意識の向上にもつながった。 ○児童の安全にかかわる内容等はメール配信を通して、保護者や地域に素早く周知することができた。 ○年度当初に給食指導研修にて教職員が共通理解を図り、具体的な対応について考え、児童の安全確保に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が快適な生活環境の大切さを意識できるよう今後も継続して取り組み働きかけていく。 ○確認された危険箇所、あるいは予想される危険については今後も関係部署と連絡を取り合い、事故発生要因にならないように早急に対処していく。 ○災害についての意識を日頃よりもち、共通理解を図ったり、具体的な対応について考えたりし、自分の命を守るための行動がとれるように児童に働きかけていく。児童の安全確保に役立てる訓練や研修を続けていきたい。 ○今後子どもたちの安全が守られるよう、緊急度の高い情報については、メール配信をし、保護者や地域との連携にいかす。 ○今後も年度当初にアレルギー研修等を行うことで教職員の共通理解を図り、児童の安全確保につなげていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校教育推進会議で授業参観と意見交換の場を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会(代表委員会)では児童が主体になって活動を行っているのがすばらしい。1年生から全学級の代表児童が児童会の運営に参加しているのがよい。あいさつを推進する取り組みやふわふわ言葉の取り組み、スローガンが掲げて取り組む活動等がとてもよい。 ・国際教室での指導や取り出し指導が1対1で行われていて、丁寧な支援ができていますと感じた。 ・タブレット(GIGA端末)を使った学習が多く見られ、活用が進んでいることに驚いた。 ・アンケートや学力調査の結果から、新町小の児童の自己肯定感が高いことがわかる。学習面でこれから伸びることを期待している。 ・教員が指導力を高めるために校内研究を進めていることがわかった。今後も継続して、教師の力量を高めることで、児童の学力向上につなげていってほしい。 	<p>学校教育目標の実現に向けて、学校経営の目標を意識しながら一つひとつ丁寧に教育活動を進めてきた。学級担任だけでなく、少人数指導、専科指導、国際教室、個別指導等、様々な形態で学習支援にあたることで児童一人一人の理解に努めた。また、教職員どうしが児童の情報を共有し連携しながら児童指導、学習指導をしてきた。いじめ防止の取り組み等、代表委員会を中心に児童発信の活動ができるよう支援にあたった。その結果高学年を中心に児童自ら意識を高めて活動できるようになってきた。来年度は、その精神を学校全体に広げていけるよう尽力していきたい。また、GIGA端末の導入から3年間が経過し、児童が学習に積極的に活用することができるようになってきている。より有効的な学習活動に向け、身につけさせたい力を明確にして教員が指導にあたるよう研究を充実させていきたい。さらに、今年度ようやく地域の教育力を生かした教育活動が復活してきた。途切れてしまった地域とのつながりや「ひと」や「こと」とのかかわりを呼び起こし、「よりよい学校・たのしい学校」を子どもたちと共につくりあげていきたいと考える。</p>